

世界中から集まった研究者たちが参加した「第3回アジアにおけるメキシコ研究国際学会」が日本で開催された。

2023年12月6日、名古屋市

「第3回アジアにおけるメキシコ研究国際学会」が2023年12月2日(土)、3日(日)に名古屋市の南山大学で開催された。学会は南山大学のロバート・キサラ学長、メルバ・プリーア駐日メキシコ大使、韓国の釜山外国語大学イベロアメリカ研究所の Sang Rae Lim 所長らによって開会式が行われた。さらに、駐日メキシコ大使館の学術・科学担当参事官のエマヌエル・トリニダー氏も出席された。

「日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画における人材育成協力プログラムの最初の50年間の意義と影響 (*Significado e impacto de los primeros 50 años del Programa de Cooperación para la Formación de Recursos Humanos en la Asociación Estratégica Global entre México y Japón*)」というタイトルの基調講演が名古屋大学のペディ・フランシス博士によって行われた。初日の発表を終えて行われた南山大学のアンテルマ・ビジャロボス先生が監修されたメキシコの民族衣装の紹介では、14名の南山大学スペイン・ラテンアメリカ学科の学生も参加した。

学会にはメキシコ、韓国、タイ、日本、アメリカの大学や研究所から約30名の研究者が対面で参加された。また、キューバ、イタリア、日本、メキシコの15名の研究者もオンラインで出席された。総計で、46の研究発表が15の分科会で行われた。研究発表では、メキシコに関連する様々なテーマ、特にアジアにおける社会科学、文学、国際関係、第二言語や外国語としてのスペイン語教育などに関連する議論が行われた。

学会は在日メキシコ大使館の協力を得て、南山大学ラテンアメリカ研究センター、釜山外国語大学イベロアメリカ研究所、在日メキシコ人教員会、在韓メキシコ人教員協会の主催で開催された。